

日刊 動労千葉

1988.10.3
No. 号外

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

ストライキを縦横無尽にうちぬける強固な組織体制を確立しよう

第15回動労千葉定期大会始まる

大会速報 初日

大会二日目を活発な討論で成功させよう

動労千葉は、十月二日より君津市・南房総研修センターにおいて、第十五回定期大会を開催しました。

大会には、県労連をはじめ、動労総連合の仲間、解雇者・清算事業団・家族会、代議員、傍聴者一八〇名が集まり、鶴岡（勝浦支部）・宮内（佐倉）両代議員を議長に選出し、開始されました。

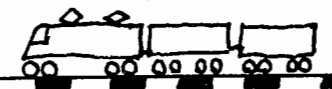
九〇年代を闘い抜ける 労働運動を

冒頭、中野委員長が挨拶にたち、「1、動労千葉は、来年三月で結成十周年をむかえようとしている。われわれは、『八〇年代に通用する自前の労働運動』路線の下、闘い抜いてきた。しかし、九〇年代は、それよりまして激動を迎え、普通のことや普通で通用しなくなる時代だ。このことを見据え、初心にかえり、みんなで作ってきた動労千葉だからみんなで頑張っていく。そうしたものとして本大会を成功させよう。2、情勢は明らかに戦争に向かって突き進んでいる。特に、天皇Xデーをにらんだ異常なまでの大キャンペーン運動・右翼の跳梁はそのことを顕著に示している。3、四・一一周年を期して開始された動労千葉根絶攻撃に対して、われわれは、四波五次にわたる波状ストライキに決起して反撃に起ちあがった。だが、この反撃は、総反撃にむけたほんの端緒を築いたにすぎない。われわれは、いつでも、どこからでもストライキを縦横無尽にうちぬける強固な組織体制の確立こそ決定的な力である。4、昨年の

強制配転に怒り集中！
大会一日目は、貴重な総括の意見が出されました。清水代議員（事務分科）、永島代議員（幕張）、長田代議員（勝浦）が強制配転、長期波状ストライキ、解雇者・清算事業団に強制配属された仲間の原職奪還などの闘いについて発言し、二日目の討議へと継続されました。

来賓の方々の連帯の挨拶
県労連、広田事務局長
県労連は、動労千葉のみなさんの地道な闘いに敬意を表します。労働組合はまず、労働組合として組合員の利益を守るべきだ。国鉄が民営化されるなかで清算事業団の問題などに対し、みなさんが非常に厳しい状況にもかかわらず闘い抜いていることに労働運動の炎が脈々と続いてきていると感じる。

動労水戸、辻川委員長
ストライキといえば動労千葉というイメージが大変強いが、動労水戸も九・三〇ストを闘い抜き大勝利をおさめた。本大会は、動労千葉が結成十年を前にして新たな闘いにはいる貴重な大会だと思う。ともに頑張ろう！



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！